

教員免許更新講習における「創作ダンス」講座の見直し： 修了認定試験の記述を参考に

To Review the Creative Dance on Teacher's Certificate Renewal Course:
To Reference Description Sentence of Examination to Complete the Course

キーワード：ダンス授業、指導事例、動きの課題、リズムの課題、空間の課題

奥野 知加

OKUNO Chika

I. はじめに

平成19年6月に「教育職員免許法」が改正され、平成21年4月より、教員として必要な最新の知識技能を身に付けることを目的として、教員免許更新制が導入された。制度導入によって、教員免許状には資格取得から10年間の有効期限が付され、更新が義務づけられ、更新講習(2年間で30時間以上)の受講・修了が必要となった。

これを受けて本学では平成21年に、文部科学大臣の認定を受け、教員免許更新講習を開設することとなった。本学における教員免許更新講習開設の趣旨は

「現職の教員が、最新の知識技能を修得し、自信と誇りをもって教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目的として教員免許更新講習を開設」¹と開設当初の、平成21年度教員免許更新講習テキスト(p. 125)に記載されている。

実技領域については、選択領域「授業に活かす保健体育科教育の改善と工夫(実技)」²教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項(平成21年度教員免許更新講習テキストpp. 49-124の各種目)という見出しが掲げられている。

本研究の対象である選択領域ダンス(実技)「創作ダンス」講座は、これらの目的の下に平成21年の

教員免許更新講習開設当初より毎年実施してきている。

講座開設から10年を迎えようとしている今般、本講座の内容を見直したいと考えた。実際の中学校・高等学校のダンス授業や授業環境に即したものであるか、また体育教師にとって支援的な内容になっているのかの観点で検討することを目的に本研究を進めた。

本研究の成果をもって見直された教員免許更新講習選択領域ダンス(実技)「創作ダンス」講座が、現在の中学校・高等学校における「創作ダンス」の授業実践の一助になれば幸いである。

II. 研究方法

本研究は、本学教員免許更新講習選択領域ダンス(実技)「創作ダンス」講座受講者の修了認定試験における回答の記述文を分析し、目的の観点から考察を加えたものである。

資料使用については受講者の同意を得、研究倫理委員会の認可を受けている。

1. 研究対象者

研究対象者は、3年間の「創作ダンス」受講者の計、中学校・高等学校教員及び中高一貫校の教員45人(小学校・特別支援学校5人は除く)である。

- ・平成27年度「創作ダンス」受講者18人
- ・平成28年度「創作ダンス」受講者18人
- ・平成29年度「創作ダンス」受講者14人

2. 修了認定試験の設問

受講者は「創作ダンス」受講後に修了認定試験を受ける。試験の設問は、『実際に「創作ダンス」授業を自校で実施する場合、本講座で実践したものの内、何をどのように活用(展開)して取り組みたいか』であり、具体的にその理由も含めて記述するというものである。上記修了認定試験の問いは、年によって多少問いかけの文言が異なるが意味は同じであり、講座開設より今日までこの設問で修了認定試験を実施している。

3. 「創作ダンス」講座の内容(指導事例)

「創作ダンス」講座は以下の三つの課題の指導事例を実践するという内容で行っている。

- ・動きの課題
- ・リズムの課題
- ・空間の課題

4. 記述文の分析方法

修了認定試験における回答記述文の分析方法は、対象者45人の全記述文を読み込み、内容から意味を解釈し、意味別に文章を文節に分解して収集するという方法をとった。それらを更に以下の二つの問いに照らして分類した。

- ・「どの課題を実践してみたいか」
- ・「どのような展開(活用)を試してみたいか」

以上の分類を三つの課題に振り分け、課題別に表を作成した。

III. 結果及び考察

1. 選択領域ダンス(実技)における「創作ダンス」講座のねらいと内容

選択領域ダンス(実技)講座は、学習指導要領に沿って「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」の3部門を設定し、開設当初から今日

まで実施している。筆者は教員免許更新講習開設当初より選択領域ダンス(実技)講座の「創作ダンス」を担当している。「創作ダンス」講座を実施するに当たり、本学における教員免許更新講習開設の趣旨を念頭におきながら、学習指導要領における中学・高校のダンス「創作ダンス」の目的を踏まえ、両者のねらいに沿った内容で講座を実施してきた。

選択領域ダンス(実技)「創作ダンス」講座のねらいと内容及び参考資料は以下の通りである。

創作ダンスの指導法については、段階に応じた様々な方法があるが、今回は基本的な課題設定と身近な題材による、初歩的な段階の指導事例を紹介します。また次段階への発展・展開はVTR資料でご説明致します。

以下は、指導におけるポイントと評価についてのまとめです。

1. 「動き」・「リズム」・「空間」の観点から課題を設定することでダンス構築の柱となる要素が学習できる。(課題学習法)
2. 初歩的な段階においては、課題は分かりやすく身近な事例を選び、興味をもって取り組めるようにする。最後に発表交流をし、振り返りを行う。(一時間完結型授業)
3. 進んだ段階へと展開させる場合は「動き」・「リズム」・「空間」の課題を生かしながら、広く多様な題材に取り組むようにしていく。(多様な楽曲・詩・絵画・彫刻・文学作品など)
4. 評価に関しては、関心・意欲・態度・思考・判断・技能・知識・理解の観点を以って、指導者は適宜、活動の過程で観察を行うよう学習指導要領に示されているが、この外に、発表時の評価としては、課題を理解し、心と体を一体化させて生き生きと表現できているかが最も重要な観点となる。また、発表・交流を通して、自分自身の取り組みや作品について、省察的で建設的な見方ができているか、についても評価の観点として着目し、このような視点で評価することで、評価を結果として留めるのではなく、次段階へと発展的に推し進める取り組みとして捉えていきたい

と考える。

(平成27・28・29年度教員免許更新講習テキスト
選択領域ダンス(実技)「創作ダンス」より抜粋
文責:奥野)

上記「創作ダンス」講座のねらいと内容は、本学
教員免許更新講習テキストに掲載されている。テキ

ストは、毎年度受講者に事前配付されているもので
「創作ダンス」は当日の実技実践の参考資料として、
指導案様式の指導事例も併せて載せている。

実際の講習は、上記参考資料の指導事例(「動き
の課題」表1「リズムの課題」表2「空間の課題」表3)
を模擬授業形式で実践を伴いながら解説していく方
法を執っている。

表1. 動きの課題による指導事例(展開部)

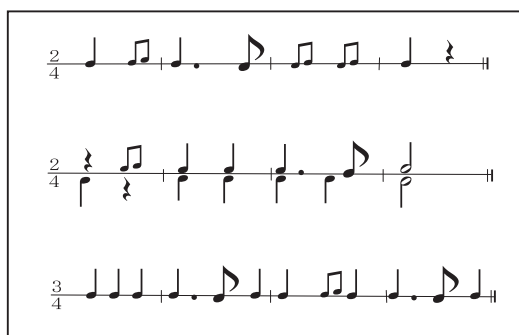
学習活導の内容	指導のねらい
日常の動きをダンスへ (スポーツの動きをヒントに) 1 種目をリアルに動いてみる (ex. 卓球・バスケット・バレーボール) 2. ダンスの動きに変換する (事例: バレーボール) ①スローモーションとストップモーション ②模倣からユニゾンへ ③繰り返しからカノンへ ④他の動きも加えて 3. 発表交流 ・対抗戦として発表してもよい	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが簡単にできる動きを選ぶ ・エアーバレーボールを楽しむ ・必要に応じて声を出してもよい ・バレーボールを事例にグループ活動 ・リアルな動きをダンスの動きに変換 ・リズム化は簡単であることを教える ・何からはじめてもよい ・模倣の段階で音楽を使用 ・始めと終わりを決める ・発表の態度とみる観点を教える

表2. リズムの課題による指導事例(展開部)

学習活導の内容	指導のねらい
リズムからダンスの動きへ 1. リズム打ちから動きの発見へ ①リズム打ちのやりとり ・全員で、二人で、グループで ・体のいろいろな部位でリズムを表現 2. リズム音符をイメージを持った動きへ ①グループでリズム打ち ②体の動きでリズムを表現 ③リズムが活きる事象を見つける ④はじめ・なか・終わりでまとめる 3. 発表交流	<ul style="list-style-type: none"> ・最初は教師対全員で練習 ・リズム打ちのやりとりが調子よく繰り返しできる楽しさ ・いろいろな身体の部位でリズムは表現できる ※1 参考例 ・拍子の異なるものを用意する ・グループで気持ちを一つにすることができる ・リズムがもつイメージを感じ取り何かの事象と結びつける ・表現の中にリズムを活かす工夫をする ・はじめ・なか・終わりのまとめ方 ・音楽はBGMとして用意する ・発表の態度とみる観点を教える

表3. 空間の課題による指導事例(展開部)

学習指導の内容	指導のねらい
<p>写真による空間模倣からダンスへ</p> <p>1. 形を忠実に模倣(コピー)してみる ・タイトルを考える</p> <p>2. 形を活かし、集合・離散・集合の空間構成でまとめる ①タイトルから運びを考える ②空間変化と時間の遅速を組み合わせる</p> <p>3. 発表交流</p>	<p>※2写真資料を用意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動ができる事例を用意する ・グループで模倣(コピー)する楽しさ ・形状の空間感覚をつかむ ・自分たち独自のイメージをみつける <ul style="list-style-type: none"> ・スペースを把握し空間のコントラストを感じ取る ・空間構成では時間の要素を加味する ・集合・離散・集合のまとめ方は、はじめ・なか・終わりと同じ <ul style="list-style-type: none"> ・音楽はBGMとして用意する ・発表の態度とみる観点を教える



写真資料1. リズム譜

写真資料2. 空間構成資料⁸

2. 選択領域ダンス(実技)講座の受講方法

本選択領域ダンス(実技)の講座は、開設当初より学習指導要領に沿って「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」の3部門の実技講習を実施してきている。しかし講習時間3時間という限られた枠内での3部門は難しく、受講者の指導の現状や実情に合わせて2部門が選択できるように、以下のような受講の流れを設定し実施している。

1. 「現代的なリズムのダンス」(70分)
2. 「創作ダンス」又は「フォークダンス」(70分)
3. 修了認定試験(40分)

「現代的なリズムのダンス」は全員が受講し、「創作ダンス」と「フォークダンス」はどちらかを選択して受講するという方式である。

3. 「創作ダンス」受講者の修了認定試験における記述文の分析結果

受講者は「創作ダンス」受講後に修了認定試験を受ける。試験の内容は、実際に「創作ダンス」授業を自校で実施する場合、本講座で実践したものの内、何をどのように活用(展開)して取り組みたいか、具体的にその理由も含めて記述するというものである。その回答から得られた記述文を読み取り分析したものを「課題別表」と「その他の表」にまとめた。表4～表8がそれである。

4. 記述文の分析結果からの考察

(1) 「動きの課題」への志向

「動きの課題」(表4)、「リズムの課題」(表5)、「空間の課題」(表6)のうち「動きの課題」を「実施したい」

という記述(20)が一番多かった。この「動きの課題」における記述数(38)についても、三つの課題の記述のなかで一番多かった。

これらより「動きの課題」を実施したいという受講者が多かったとみることができる。この理由のひとつとし

て、指導事例の日常の動きの題材を「バレーボール」で実施したことがあげられる。この題材が受講者である現役体育教師の興味と関心をひき、題材に親和性を感じたことで実施を志向したのではないかと推察する。

表4. 動きの課題 事例：バレーボール(38記述)

実践したい理由 (20)	活用(展開) (18)
<ul style="list-style-type: none"> ・楽しくできる(4) ・苦手な生徒に効果的(3) ・取り組みやすい ・面白そう ・コミュニケーションを取りながらできる ・誰でも自然に入れる ・心を開かせることができる ・周囲を配慮しながらできる ・動きやすい ・迷わずできる ・恥ずかしがらずできる ・取り組みやすい雰囲気作りができる ※やってみたい (理由は記述されていない)(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニゾン・カノンをやってみたい(3) ・ストップ・スローを教えたい(3) ・意識を持たせたい(3) ・簡単なものからやってみたい(2) ・模倣からユニゾンをやってみたい ・リズム・空間とリンクさせて行う ・日常の動きをヒントに取り組みたい ・イメージしやすい動きでやってみたい ・はじめ・なか・終わりで構成したい ・アイドルの動きを取り入れる ・身近な動きからやっていきたい

表5. リズムの課題 (26記述)

実践したい理由 (16)	活用(展開) (10)
<ul style="list-style-type: none"> ・楽しくできる(5) ・簡単なのでやってみたい(3) ・苦手な生徒に効果的(2) ・取り組みやすい(2) ・相手とかかわりながらできる ※やってみたい (理由は記述されていない)(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・意識させて行いたい(3) ・導入でやってみたい(2) ・日常動作のリズム化 ・リズム打ちをやってみたい ・イメージと重ねる ・身近な題材をリズムに合わせる ・工夫させたい

表6. 空間の課題 (20記述)

実践したい理由 (8)	活用(展開) (12)
<ul style="list-style-type: none"> ・楽しくできる(3) ・コミュニケーションをとりながらできる ・取り組みやすい ※やってみたい (理由は記述されていない)(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・集合・離散をやってみたい(4) ・意識を持たせていきたい(4) ・簡単なものからやってみたい(2) ・いろいろに工夫させたい ・動きづくりを試したい

表7. 課題全体を通しての記述 (10記述)

実践したい理由 (8)	活用(展開) (2)
<ul style="list-style-type: none"> ・創作しやすくなる(2) ・ダンスは難しくない(2) ・身近なもので表現できる ・抵抗感を持たずに取り組める ・協力して取り組めるのがよい ・自由な考えで大丈夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめ・なか・終わりや集合・離散を指導のポイントにしたい(2)

表 8. その他の記述 (7)

問題点 (2)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 次への展開が悩ましい ・ 男女のコミュニケーションが取れるような工夫をしたい
他の方法でやっている (5)
<ul style="list-style-type: none"> ・ イメージを提示してやっている ・ テーマに沿った動き作りをしている ・ テーマを設定し動き・リズム・空間を考える ・ 動きやテーマを決めて取り組んでいる ・ 即興を発表している

また「動きの課題」における「実施したい理由」は、他の課題のそれよりも多岐に亘り、多かった。このこと
の背景には、受講者が本課題実施に向けて、自らの
指導現場での可能性について具体性をもって捉え、
実践を考えていたということがうかがえる。

「実施したい理由」をみると、ここにおける記述数は
20であるが、内容は「楽しくできる」・「苦手な生徒に
効果的」・「取り組みやすい」・「コミュニケーションを
取りながらできる」の四つに集約することができる。そ
の他の理由については、言い方の違いはあるものの、
全て上記四つの理由の何れかに関連した内容である
ことが分かり、上記四つにまとめることができた。

「動きの課題」における「活用(展開)」についても、
記述(18)が他の課題よりも多く、ここでは「カノン・ユ
ニゾンをやってみたい」、「ストップ・スローを教えたい
」という記述が多かった。この「カノン・ユニゾンを使
いたい」ということから、受講者は本課題をグループ活
動で取り組むということを念頭においていたということが
推察される。また「ストップ・スローを教えたい」とい
う記述が多いということからは、日常的な動きをダン
スの動きに変換することを意識していたということがう
かがえる。

以上、「動きの課題」の実践者が多いのは、受講
者が事例の題材に親和性を持っていたことや、「楽し
く出来る」・「苦手な生徒に効果的」・「取り組みやす
い」・「コミュニケーションを取りながらできる」など、
実践への理由が明確にあったことが挙げられる。そ
して実践に向けては、グループ活動を通して、日常
の動きをダンスの動きに変換し、ダンス作品にまとめ

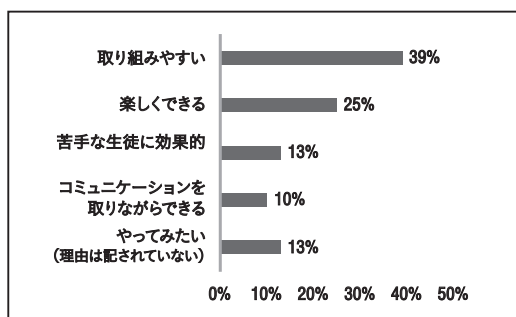


図 1. 実施したい理由 (52記述)

ていきたいと考えていたことが判明した。

(2) 「リズムの課題」「空間の課題」における活用と展開の問題

「動きの課題」の次に記述が多かったのは「リズム
の課題」(表5)そして「空間の課題」(表6)の順であ
る。

表5・6より「リズムの課題」(16)・「空間の課題」
(8)のどちらも「実施したい理由」の数は「動きの課題」
(20)のそれよりも少ないが、「動きの課題」(表1)と
内容(文言)が同じ傾向であることが分かる。それらは
「楽しくできる」・「取り組みやすい」・「コミュニケー
ションを取りながらできる」「相手とかわりながらできる」
であった。つまり課題学習の実践の理由については、
三つの課題で共通していたとみることができる。

一方、「リズムの課題」・「空間の課題」の「活用(展
開)」をみると「動きの課題」に比べて、記述数が少な
く記述内容の多様性にも乏しいことが分かる。このこ
とが、実践者が少ない原因を生み出しているのではな
いかと考える。

「リズムの課題」・「空間の課題」の実践への「活用
(展開)」は、「動きの課題」と同じように「カノン・ユ
ニゾン」や「ストップ・スロー」の手法を応用できるとい
うことへの気づきや関係性への理解が足りなかったの
ではないかと推測する。

(3) 「創作ダンス」課題学習実践へのキーワード

前述(2)で、本課題学習における実践の理由につ
いては、三つの課題で共通していたと考察したが、

このことを強化するものが、今回の受講者全員の「実施したい理由」(52記述)をまとめた図1である。

ここで明確に分かったことは、「創作ダンス」実践に向けての一番の動機は、「取り組みやすさ」であったということである。「取り組みやすい」(39%)が一番多く、次いで「楽しくできる」(25%)であった。

「創作ダンス」の授業実施において、取り組みやすいということは、特に導入の段階においては重要なポイントとなるであろう。また学習指導要領におけるダンスのねらいの一つである、楽しく取り組めるということも、なくてはならない条件である。両者を兼ね備えた課題学習を目指して授業づくりをするという指針がこの結果に示されていたと言えよう。

IV. 今後の課題

以上、4-(1)(2)(3)の考察結果より、下記のような今後の課題が導き出された。

まず、各課題学習実践に向けての「活用(展開)」は、「カノン・ユニゾン」、「ストップ・スロー」、「集合・離散」、「はじめ・なか・終わり」等の本講習で解説した全ての手法に開かれたものであるという認識や理解を受講者に強調して伝える必要があるということが挙げられる。

今後は本講座で、活用(展開)に向けての手法の実践と解説を三つの課題とも偏りなく行いたいと考える。この点を補充することで、「リズムの課題」・「空間の課題」への志向が高まり、実践者も増えるのではないかと考える。

次に、課題学習の授業実践に向けてのキーワードとして「取り組みやすさ」・「楽しくできる」が挙げられたが、これは三つの課題に共通していた事柄であった。特に導入部では、何れの課題であっても、学習者が題材に親和性を感じることが重要であるということについては、今後も本教員免許更新講習で強調していきたい事柄である。

その他、前項の結果と考察には取り上げていないが、表5「その他の記述」のなかに「次への展開が悩ましい」という記述がみられた。これは、今後の課題として看過できないことである。

対策としては、「創作ダンス」における課題学習の全体像を示すこと。つまり「創作ダンス」のねらい達成に繋げられる課題の設定と、その取り組み方については、前提として明確にしておくべきことであり、講座実施に先立ち解説することが肝要であると考ええる。

以上、本研究で得られた結果については、体育教師の「創作ダンス」授業実践における指導上の問題や悩みの解決になるよう、本教員免許更新講習はじめ、あらゆる伝達の機会において示していきたいと考える。

引用文献・参考文献

1. 東京女子体育大学(2009) 教員免許状更新講習テキスト p. 125
2. 東京女子体育大学(2009) 教員免許状更新講習テキスト pp. 49-124 見出し
3. 東京女子体育大学(2015) 教員免許状更新講習テキスト
4. 東京女子体育大学(2016) 教員免許状更新講習テキスト
5. 東京女子体育大学(2017) 教員免許状更新講習テキスト
6. 文部科学省(2008) 中学校学習指導要領解説 保健体育編
7. 文部科学省(2009) 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編
8. Alvin Ailey American Dance Theater
www.capacityinteractive.com